

# 産業建設委員会記録

令和2年4月16日（木）

9時57分～11時41分

第4委員会室

【委員】串崎委員長、飛野副委員長、  
川上委員、野藤委員、笹田委員、布施委員、道下委員

【執行部】

（産業経済部）湯浅産業経済部長、佐々木産業経済副部長、大驛商工労働課長、  
山口産業振興課長、永見水産振興課長、戸津川副参事、岸本観光交流課長、  
松井水産係長、田中専門企画員

【事務局】中谷書記

---

議題

1 浜田漁港周辺エリア活性化計画に関する執行部との意見交換について

2 その他

## 【議事の経過】

[ 9 時 57 分 開議 ]

串崎委員長

ただ今から、産業建設委員会を開会する。本日布施委員から欠席届が出ており、出席委員は6名で定足数に達している。  
それでは、レジュメにそって進める。

### 1. 浜田漁港周辺エリア活性化計画に関する執行部との意見交換について

串崎委員長

本日は本議題のために湯浅産業経済部長を始め関係課から多くの皆さまにご出席をいただいた。

今回、この議題を設定した経過だが、本年も引き続き政策討論会を行うことになっている。政策討論会を行うためにはこの浜田漁港周辺エリア活性化計画について改めて説明を受け意見交換をし、今後進めていきたいと委員から意見が出たので本日はよろしく願います。

参考のために昨年度行った政策討論会を経て作成した「お魚センターを中心としたエリアの活性化について」の意見書を添付している。

説明後、本計画について委員と執行部とで意見交換を行う。

それでは執行部からの説明をお願いします。産業経済部長。

産業経済部長

これまでも浜田漁港周辺エリアの活性化計画については随時説明しながら完成させていただいたが、本日機会を設けていただいたので改めて概要の説明をさせていただく。説明は担当課長から行う。

水産振興課長

( 以下、資料をもとに説明 )

串崎委員長

説明は以上である。それでは意見交換に入る。

川上委員

目指す姿の中に「元気な浜田」として、交流人口拡大による水産業の、という書き方がしてある。浜田市は今回、定住関係人口推進課を設けられた。そうすると関係人口もこの中に入ってくると思うのだが、どのようにお考えか。

観光交流課長

関係人口については、この活性化計画の中に盛り込まれていないのはご指摘のとおり。まずは交流人口・観光人口を中心に考えていきたい。

川上委員

確かに現在は組み込まれていないが、浜田の漁港周辺は定住人口も関係してくるし、関係人口も関係する。それを補完するのが関係人口である。関係人口についての扱いもこの中にしっかり入れ込んでいただきたい。本当は今日、川合課長がおられたらちょうど良かったのだが。

道下委員

新7号市場が7月に完成する。あれだけ大きく素晴らしいものできていて、そもそも魚は揚がるのかというのが市民の開口一番である。それに対してどう説明したら良いか。

水産振興課長

規模についてはJFしまねなりと協議して決めるのだが、今の外来船の入港状況であったり、水揚げは少ないかもしれないが入港する船の大きさなどを加味して規模感を協議した結果で決めた。水揚げの増加については、外来船をいかに呼ぶかであったり、最低限今の水揚げを確保しようと思えば、地元漁船を必ず維持存続させる。地元漁船を増やす努力なども併せてやっていく必要がある。規模感については船の大きさなどを加味している。今は水揚げが少なくとも、水揚げが多くなるとある程度の規模が必要になってくる。

道下委員

どのようなスタイルなのか。今は地元巻き網が揚げるのは、荷捌所に向かって右のほうから。大型巻き網は左のほうで荷揚げする格好になるのか。

水産振興課副参事

57ページを見ながらご説明する。7号荷捌所の、57ページで言うと上側に写真が出ているが、ここは船が4隻着岸できる計画で進めている。西側に今は選別機が2基あるが、西側で選別機対応で水揚げをする予定で選別機を設置している。東側は2隻、トータル4隻が着岸できるような長さでの荷捌所ができていたのだが、西側は先ほど言ったとおりで、東側2隻はドラックスケールで水揚げできるような計画で、4隻対応できるようにしてあるが、ご存知のように今浜田では選別機で水揚げされて競りをされて出荷されている。選別機を通すと魚価がどうしても上がっていくので、浜田で揚げるなら選別機を通したいということで、2基対応で作っている。実際のところ、今5号に4基あるが、本当に2基で大丈夫かと言われている。今は2基対応で選別機を中心に水揚げしていただくことになる。今は地元船がある程度優先されているが、これからはJFしまねの考えだが大中も含め、入港順に選別して水揚していくことをJFは考えておられる。

道下委員

入港順という、今は7時からやって、今日でも大型の競りは10時頃になっていたと思うが、やはり選別機を通すとそれくらいまでの見当になるのか。

水産振興課副参事

入港時間は6時半に入って競りをされて、7時から随時揚げていくということになるのか、その辺は時間的には少し形態が変わってくるのではないかと思っている。今は5号で揚げているが、地元船がある程度優先されて水揚げされているが、今度は入港順なので時間は少し早まってくる可能性もあるのかなと思う。ただ、ご承知のように沖合底引きの競りの時間もあるので、それが終わってからでないとならない。その辺の時間を見ながら競りの時間が決まってくるかと思う。JFの采配の中で時間を設定して出荷することになるかと思う。

大中の船は漁場が沖になったりするので、帰ってくる時間も遅くなり競りの時間が遅れたり、10時くらいになったりということはあるのかと思う。

道下委員

それとは別に、新型コロナウイルスのせいで仲買人が手配する商売屋の売上がかなり落ち込んでいる。魚価も半値くらいになっていると聞く。私らのような立場の者が行くと、何しに来たのかという、緊張感と切羽詰まった空気がある。それは把握されているか。

水産振興課長

特に外食。飲食店、居酒屋に卸すような生魚については、仕入れも落ち込んで、魚価が下がっているという状況を把握している。

道下委員

引き取りの数量も少なくなっている。しかしそれ以上に、支払いをやってくれない。二重になっているから大変だと。

水産振興課長

回収ができないということか。

道下委員

あなたたち分かっているのかと言われて。何度も言うが、職員は1日に1回はあそこに行って、船が変わった時には行って、皆の意見を吸い上げて。これが根本であり、それからこういうものが出てきて皆の意見とキャッチボールができると思うのだが。今の状況の中で机上の空論め

いている。よろしく願います。

野藤委員

概要版の1ページ下に、課題が6点出ている。この課題の中で一番大きいのは、水揚げ量及び魚価の低迷と、漁業就業者の後継者不足だろうと私は思う。どのようにするのかという目標は。

特三漁港に指定されたとあるが、水揚げが下がりだしてからの数字しか出ていない。1991年がマックスだったのかもしれないが、ここが標準になっていて、下がった下がったと言われている。本当はこの時期にイワシが獲れて極端に上がったのでは。だからこういう数字を出すといかにもすごく下がったように感じるが、標準値は2000年前後あたりの数字かと思ったりもする。あまり高いところを見過ぎているから、焦点がぼやけているのかと思ったりもする。

1ページの漁業就業者数が2013年にこうなるとあるが、これ以降の数字がない。5年ごとなら2018年の数字があるのでは。なぜ2013年を使っているのか。

水産振興課長

これは漁業センサスの数字を使っており、これは5年おきに出る。2018年のデータをネット等で探したが、まだ公表されてなかった。もちろん掘んでいく必要があるので、データ収集はやっていきたい。

野藤委員

おそらく速報版みたいなものは出ていると思う。2013年というところから7年前で、漁業就業者数も経営体数も落ちている。工場も相当落ちているはずなので、この数字をもとにやっていくと気が緩むのでは。今は沖底と巻き網をメインにしているが、やはり沿岸もやらないと駄目ではないかと私は思う。

水産振興課長

最新のデータを持ちながら検証していきたい。それによって目標値も変わってくるケースもあるので、それについては毎年見直しをかけていきたい。

それと沿岸、沖底・巻き網以外の、沿岸一本釣りだったり潜りだったりについては、この中では特に項目として触れてはいないが、県のスタンスとして沿岸漁業者についても何とか伸ばしていこうという取組があるので、島根県と一緒にあって諸制度を活用しながら、沿岸漁業者にも力をつけてもらうような取組をしたい。

併せて市で言えば、アワビの放流等の支援などを実施しているが、JFや漁業者の意見も伺いながら、新たな放流魚種も検討していく必要があると考えている。

野藤委員

昨日中山間地の特別委員会があった。半農半Xの話が出て。やはりいろいろなものを組み合わせると生活できない、これは漁業も一緒なので。例えば昔の水揚げがわりと良かったのは津摩のはえなわ等が良かった。魚価の低迷もあるのだが、あの辺を今風に省力化すれば十分採算に合う漁業だと思う。例えば放流魚種にしても、島根半島のほうはアマダイを放流したり、山口方面ではアコウの放流をしたり、沿岸に力を入れている。その辺もバランス良くやらないといけないのかなと思っているが、いかがだろうか。

水産振興課長

放流について、今の市のスタンスとすれば、島根県が作成する栽培漁業基本計画に基づいてヒラメの放流をさせていただいているが、また島根県と一緒にあって漁業者等の意見や要望の聞き取りをして、状況把握

しながら検討していきたい。

笹田委員

54ページの表が全てだと思っている。ここさえクリアできれば積み上がったとおりになるのではと思う。これは6年間の計画だが、一般質問もさせていただいた、ローリングをかけていくとの話だが、どのタイミングでどういった形でかけていくのか。

水産振興課長

毎回年度末に、推進委員に最終的に検証・検討してもらおうのだが、それまでの間で浜田市水産業振興協会、これは全体の進行管理を担うので、その中で年度末に見直しやローリング、提案等を推進委員会に諮って承認を得て見直す運びになると思う。

笹田委員

漁船漁業の維持ではなく増やしていくことも考えていけないということで、そういった可能性が見えている部分では目標も変えていかないといいない。この計画は今回6年だが、本年度7号荷捌所もできるし、お魚センター公設市場移転も今年度なので、ほぼ今年度が鍵だと思っている。4号荷捌所はこの後なので、今年しっかり動いていただき計画を進めないと、この計画が丸つぶれになってもおかしくないと考えている。その上で、まだ市民にこのことが伝わっていないのが事実で、7月に荷捌所が完了、11月にはリニューアルオープンすることを、今の時期から市民に、浜田漁港は生まれ変わるのだと訴える仕掛けも必要ではないかと思うのだが、その辺りはどのようにお考えか。

水産振興課長

おっしゃるとおりである。新しい荷捌所ができる、山陰浜田港公設市場ができる、この機会を捉えてこの計画を策定した。初年度は大事な1年かと思っている。しっかりとしたPR、情報発信を何等かの形でしていきたい。

笹田委員

11月にはコロナが収まっていることを願っている。1つのイベントとして市民が大勢かけつけるような仕掛けをしないと、生まれ変わったことが市民にアピールできないと思うのでお願いしたい。

7月から高度衛生型荷捌所が開始する。最初は巻き網からとのことだが、施設ができて使い方によっては意味がなくなるとこれまでも申し上げてきた。JF、生産者等を含めて使い方についての教育等はどの程度進めるのか。

水産振興課副参事

高度衛生の推進協議会の立ち上げを2月26日にさせていただいた。本来なら4月にプレゼンを開催して、7号荷捌所の衛生に基づいたマニュアル案を作ったので、それに基づいた具体的な使い方について説明したいと思っているところなのだが、新型コロナウイルスの影響で人が集まるかどうかで遅れているところ。工事設計者が東京の方で、来てもらって具体的な説明もいただきかけたのだがそれもままならない。思いからは遅れているのは事実である。とはいえこちらにも業者がいるので、その業者の方針に基づいた具体的な使い方も、私どもはじめJFがしっかり習得して、関係者にきちんとお伝えする機会を是非作っていききたいとは思っている。実際に入るのも難しいわけではないがマニュアルに基づいて入って、中で作業してもらおう。作業については基本的にはこれまで水揚げして出荷される流れは変わってないので、その手順が少しややこしくはなるのだが、マニュアルに基づいてやっていただくよう指導していきたい。推進協議会は卸、生産者、仲買の頭の方が会員として入っ

ている。まずはそこにしっかり習得してもらい、各関係者で集まって理解いただくように進めていきたい。

7号で巻き網をまずやるが、実際には4号の解体を今年度に考えているので、4号の機能を5号に仮設しなければいけないので、5号で沖合底引きの競り等をしないといけない。その辺のスケジュールもご説明しながら、4号の解体が出来るよう準備していきたい。

笹田委員

コロナの関連が出るのは仕方ないが、スタートと同時に、売りは高度衛生管理型の魚がこれから浜田でも取り扱えることだと思うので。浜田の競りの状況は道下委員からも話があったが、6時から底曳きをやって、終わったら1本釣り、沿岸漁業をやって、その後に巻き網に行く形になっている。仲買もJFもそうだが、競りの状況が変わると思う。その棲み分けもすごく大変だと思う。仲買の方々にしっかり競りを行ってもらえるのか疑問に思ったので、4月にはできる体制を整えておくようにやっていただきたい。始まるまでにはとにかく対応していただきたい。先ほど野藤委員からもあった沿岸漁業の関係だが、私も同意見である。私がやっているからではなく、まわりの近海を守りながら漁業をやっていくのは沿岸漁業者だと思っている。今回瀬戸ヶ島にわかめの会社が増え、今日も皆でわかめを取りに行っていると聞いた。沿岸漁業者はすごく頑張っている。漁業法の改正があって、沿岸漁業がだいぶ変わっていくのではと予測されるので、そういった意味でも沿岸漁業者は新たな魚種だったり養殖だったりする部分でかなり力になってもらえる、また新たに参入しやすい団体も出てくるのではないかと思うので、アンテナを張っていただき、出来次第推進していくべきだと思うがいかがか。

水産振興課長

この計画ではまだ織り込まず、ただ話をさせていただいた。沿岸漁業者も水揚量に貢献していただく大事な漁業者だと思っている。島根県が今、沿岸漁業者にも力を入れようという取組を今年度から計画策定してやっている。浜田市もそれに準じ、県に協力して沿岸漁業の実態から状況把握しながら、何が出来るかを検討していきたい。

笹田委員

瀬戸ヶ島はわかめや塩をやっていて、今回陸上養殖の件もあるとのことで、今の段階でお話できる部分があれば聞きたいのだが。陸上養殖の進捗状況について。

水産振興課長

瀬戸ヶ島の進捗状況については、それこそコロナの関係で検討が遅れている状況である。今、水質調査の結果を基に何が出来るか、どういったことが出来るかを検討していただき、その結果待ちである。

産業経済部長

まさに今週、その辺の打合せもしようと言う事だったのだが、あちらも在宅勤務で、我々も東京に行けない状況があったので。今年度の早い時期にお話して、皆にも早く良い報告ができるようにと思っていたのだが、こういった状況なのでしっかりフォローしていく。もう少しお待ちいただきたい。

笹田委員

放流事業はヒラメの養殖をされているとのことで。先日は時化で1日遅れてヒラメが入ってきた。上の養殖施設で畜養していただき放流事業ということだが、当人と話をすると、今年度で終えたいとお聞きした。今後どうやってやっていくのか。市には今後についてしっかり考えておいてくれと申し上げたとされていた。来年以降も計画が載っている以

水産振興課長

上は放流事業も進めていくのだろうと思うが、どのようにお考えなのか。今お願いしている漁業者の方は今年度で退きたいとお聞きしている。これは事業主体が島根県水産振興協会だが、基本計画に基づいてヒラメの放流をしていきたいということである。本当は市としてはどこかに中間育成施設を作ってもらい、専門職の方がおられて、放流までの世話をさせていただくのがベストだとずっと言い続けているが、なかなかそれもできない状況の中で、現在の養殖場をお願いしている。

笹田委員

それこそ浜田の海で生活する会の方々に、当時後継者という意味合いで事業者のお手伝いをさせていただいているので、ノウハウも蓄積をされている。すぐ中間育成施設ができるということは難しいので、施設を借りて継続していくということに、当面はなるのかなと予想している。

身体の不調の話もして、浜田の海で生活する会のメンバー2人がいていろいろ手伝いをしながらやっているとお聞きしている。もう大丈夫だろうと言っておられた。何かあれば手伝いをするとも言ってくさっているの、早急に事業者へ伝えて、来年以降も含めて計画を立てていかないと。早めに、先に先にお伝えして、早急にしていただきたい。

この計画では25年度には80万になっているので。今の状況よりも広い部分でやらなければいけない状況になってくると思うので、早めにしていただく。

水産振興課長

次年度以降については早急に、また話を進めていきたい。

笹田委員

お魚センターについてだが、指定管理者も決まり内装も含めて協議中だと思うが、今現在で我々にお伝えできることがあればお伝えしたいのだが。

水産振興課副参事

仲買棟については工事着手して、伊原組に工事に入って改修を進めていただいている。商業棟も第一ビルに指定管理が決定したので、実際に商業棟改修の工程会議も入っていただき、協議を進めている。第一ビルの提案の中には、1階の商業棟については直営で物販の販売をしていきたい。元々調理室があったところではどぶろく販売をしたいとのことで、弥栄を中心にやっていた部分はこちらでできるかも、国とも協議しながら本当にできるかどうかも含めて。市としては要望に沿っていただきたいと思っているので、何とか協議を進めていきたい。状況により関係者の方に今後協議なり話をさせてもらわないといけない機会は当然あると思う。それについては状況を見ながら、遅くならないようにしていきたい。

2階の飲食については現在テナント募集中であり、まだ決まっていない状況である。仲買の2階におられる物産にも行っていただきたくお願いもしているのだが、条件等もあってまだ決定していない。引き続きお願いしている。第一ビルもホームページ等でテナントの募集もしていただいている。市民を始め多くの方に来ていただけるようなテナントに入ってもらいたいと思っているので、一緒になってテナントに入ってもらおう取組をしていかないといけない。5月中には何とか決めていきたいと話している。工事については8月末までに何とか終わらせて、仲買の移転等の期間もしっかり担保していただきたい。

今のところ、コロナはあるが工程的には進めると確認している。

笹田委員

順調に進んでいると理解した。あとは2階のフードコートに入るところを探していると。先ほど言われたが、公設の2階の飲食店に入っただけ形にして、あそこは3店舗の中の1つとして入っていただきたいという声もあるが、条件もあるので市がしっかり考えて、入ってもらえる状況を作っていただきたい。

水産振興課副参事

以前串崎委員長が申し上げたが、魚だけでなく浜田の一次産業のもので同時に売れるものがあると良いという提案があった。我々もそれを申し上げてきた。その件についてはどのようなになっているか。

笹田委員

第一ビルの提案では水産加工品だけでなく、農産物を含めた浜田市の特産品も扱って販売していきたいということでご提案いただいている。指定管理者も積極的にそういったものも販売するスタンスでおられるので、協力できる部分は一緒になってやりたい。

水産振興課副参事

それはJ A等も絡んでいるのか。

はい。提案時にはJ Aの協力もいただくということで、盛り込んでおられた。一緒になってやっていきたい。

笹田委員

一番思いがあるというかお魚センターという名前が独り歩きして、公設市場がお魚センターという名前になったのかと聞かれる。お魚センターには採算が合わず閉鎖したという風評被害もあるかと思う。リニューアルの際の名前はどのようにするか、募集にするのか、考えておかないといけない。その辺のお考えはどうか。

水産振興課副参事

名称については内部でも協議している。公募したら良いのではという意見もある。公募するとしたら誰が決めるのか等、いろいろな意見があるので、あまり時間をおいてはいけないがこれも決めなければならない。指定管理者から名称の提案があれば、いただきながら少し検討したい。今の段階で具体的な方針は持っていない。

笹田委員

それも5月末までには考えておかないと。センスのある人に考えてもらいたい。通称ではなくいえるような、お堅いお役所が考えた名前ではなく市民に愛されてパッと言えるような名前にしたほうが良い。そうでなければこちらも言いづらいし、市民に説明するにも呼称があると良い。名前はしっかり良いものにしていただくよう期待している。

飛野副委員長

名称については私も気になっていた。行きたくなるような是非とも良い名前をお願いしたい。2点目は、エリアの活性化に農林は関係ないのかという考え方。これもたびたび言ってきたが、エリアは港の活性化だけではない。港エリアの活性化は市民を上げて参加でき、賑わう、そのためには農林を外してはいけないと思っている。いろんな説明を見ると、農林に関わる事業者の名前が一切出てきていない。J A云々の話もあったが、浜田市全体としてこのエリアを盛り上げるなら、農林も必要ではないかと私は思う。

水産振興課長

もう1点、63ページ。後継者、担い手の問題は大きな課題と受け止めている。数値目標を掲げるのは素晴らしいことだと思う。目標値47人の根拠は何か。この事業を進めるために47名必要ということか、それとももっと深く読み込んだ上での理由なのか。

15人から47人というのは、毎年5名ないし4名程度の新規漁業者を確保していこうという数値目標にしている。



飛野副委員長

担い手づくりは本当に大変である。JAやふるさと島根定住財団と一緒にやると決定的なものは本当はない。大きな仕事だと思う。何か決め手があるか。

水産振興課長

若者漁業者確保支援制度という市の事業があり、これは学校を卒業して3年以内の方が対象。それからUIターン者を対象としたふるさと漁業育成事業、これは農業研修生育成制度と同じような事業。UIターン者は厳しい現状だが、若手漁業者については近年では3、4人くらいずっと実績が上がっている。これについては漁業の魅力といったことを地元水産高校等に伝えていながら、各経営体にも努力していただいている。

育成制度は助成金制度だが、助成金制度を活用しながら新しい人を入れていきたい。

飛野副委員長

農業の世界では若者がいないので年齢をどんどん上げていっている。年齢的なものは、ここでは若者に限って考えておられるのか。

水産振興課長

特に後継者という意味合いで、若手中心の制度にさせていただく考えである。年齢制限がないものはUIターンで、こちらに来て漁業がしたい方をいかに取り込むかを研究していきたい。担当課は違うがUIターンフェアというのがあるので、そういう所でチラシを配布しながらご説明しているところである。

飛野副委員長

頑張ってください。

野藤委員

7月に高度衛生管理型荷捌所ができるが、現状ではJFに指定管理を委託することになっている。マンパワーは大丈夫か。

水産振興課副参事

ご承知のようにJFは人が増えず、人材が足りない。更に高度衛生によって記録を取ったり、高度衛生システムを集中管理するのだが、どうしてもマンパワーが必要になってくる。

JFとの話では、JFだけで運営するのは難しいとのことで、高度衛生システム管理などは委託したいと考えておられるようである。指定管理業務をやっていただくのはもちろんだが、部分的な委託をして、高度衛生システムの情報を取るといった対応をしていきたいらしい。

野藤委員

資料では、選別作業に漁協サービスと書いてあった。現状を見ると管理はとても難しい。市が荷捌所を所有しておられて、最低何人いるのかといった話は漁協としているのか。

水産振興課副参事

今何人おられて何人必要かといった具体的な数字までは協議していないが、巻き網漁業については1カゴいくらという競りだが、今度は水を入れたタンクをJFが作られて、そこに水揚げした魚を入れて、正味の魚の量、タンクでいくらという形で競りをされる。そこへ直接魚が入るような選別機にしているので、人手は少しでも減らせるシステムに変えてやっていきたいとされている。今の人数が減っても対応できるような内容でやっていきたいと、巻き網に関してはそういう準備をしている。

野藤委員

省力化はされると思うが、何度かシミュレーションはされるのだと思う。高度衛生管理型施設だけでなく全体的な課題にはマンパワーが足りないと書いてあるので、このたび荷捌所をするにあたり、そういうところも市からJFに強く申入れをされて、人が足りないところには確保して、それが港の賑わい創出にもなるので、そこは強く言われたほうが良

	いのではないか。
水産振興課副参事	J F の職員は増えず、J F 自体も苦慮されているのが事実。増えるような状況になってないのも事実で、市としても非常に不安に思っている。市長から J F にしっかりお願いしていきたい。
	外は少しまだ終わってないが施設はできたので、議員に内覧していただいてからまたご意見をいただきたい。機会を作りたい。
野藤委員	施設を市が所有しているので意見が言いやすくなったとは思っているので、マンパワーについてはよろしく願います。
串崎委員長	概要版に課題が 4 つある。冷凍冷蔵庫の予算はどれくらいを見ているのか。
水産振興課長	冷凍冷蔵庫の整備費について、島根県もいろいろ試算されているが、建設費に 10 億以上はかかると見ている。冷凍冷蔵庫整備は必要だと仲買や生産者が言われているので、市から J F に、作っていただけないか働きかけをしている。正式に作るという判断はいただいている。
串崎委員長	他の課題として生産者と仲買の連携不足と書いてある。どのような連携不足を想定しているのか。
水産振興課長	販路開拓等を進めているのだが、生産者は高く買ってほしい、仲買は安く買って利益を上げたいという、相関関係にある。良い魚を扱うわけなので共通認識を持って、良い魚を売っていこうという意識の連携がなかなか取れていない状況ではないかと考えている。ブランド化している魚は魚価も取れるが、それ以外の魚は魚価が取れない状況もあるので、底上げしたいという意味でこういう表現をさせてもらった。これはピアリングで吸い上げた課題である。
串崎委員長	3 ページに、観光及び地域活性化の推進と書いてある中に、集客施設の設置と書いてある。水産を売る建物と農業を売る建物は別にとという話で、水産業だけでは人は集まらないのは皆ご存知のとおり。ここにこう書いてあるのは、お魚センター以外の建物のお考えがあるからか。
水産振興課長	とりあえず周辺エリア拠点施設として山陰浜田港公設市場があつて、そこを拠点に観光と連携する部分であったり、イベントを実施していくことを考えている。賑わい創出を目的にした集客施設を新たに建てることは考えていない。
串崎委員長	先ほど話も出たように、農協の産直市の建物を市が兼ねてやるから人が入る、くらいの気持ちでやっていただかなければ人は集まらないのではないかと思う。
	最後のページに表がある。合点がいけないのが、瀬戸ヶ島埋立地の活用について。なぜ市と県が二重丸でここにいるのか。
水産振興課長	あくまでも事業は事業者がメインで整備主体になっていただき、県市はそれに対して支援するという事なので、整備主体は参入される事業者の方。支援機関として県市がある。
川上委員	以前から言っているが、浜田港拠点化形成研究会はどの辺に位置づけられるのか。これを見るとどこにもないのだが。あれを生かす気はないのか。
産業振興課長	浜田港拠点化形成研究会は平成 28 年に、県の発案も含め、石見・萩・広島県北も含め、関係市町村と島根県、商工会議所、商工団体、こうい

った関係者が集まった、浜田港の貨物を増やしていこう、クルーズ船も誘致して賑わいを作ろうという研究会が発足した。

この研究会がこのエリアにどう反映しているかという質問だが、港オアシス部分の整理を。拠点化形成計画は就航やクルーズを地域全体で考えるものである。人が集まって賑わいを作ることが関わるので当然無関係ではないのだが。

川上委員

関係ないから外すのか、それとも若干でも出してくるものをここに含むか。

水産振興課長

私は形成研究会の具体的な中身については把握していないが、港湾の計画と言われたが、商港の関連で言えば72ページの内容であったり、海外輸出の展開については67ページにある。特に形成会と整合性を取った形にはなっていないが、これは中身を拝見して、付随するようなものなら盛り込む必要もあるかと思う。とりあえず浜田港の関連で言えば、港オアシスを活用した賑わい創出と、海外市場への輸出促進ということを盛り込ませていただいている。

川上委員

そうであれば、この研究会についての重要度を今後どこかに盛り込む必要があると思う。関係人口という部分で言えば、高いポジションを持っている。考えていただければと思う。関連をしっかりと取ってやっていただきたい。

野藤委員

上位計画、総合振興計画の下にあるから一応良いのでは。

川上委員

違う。

野藤委員

では良い。

道下委員

先日、元議員の方と会う機会があり、港エリアにあるBB浴場を活用せよと言われた。そういった計画は何もないのか。

水産振興課長

活用とはどういうことか、市民への開放か。

水産振興係長

市民の方も自由に使えるとJFから聞いている。

道下委員

自由に使えるかどうかではなく、建物自体が経年劣化している。その辺はどうお考えか。

水産振興課長

BB浴場もかなり老朽化していると聞いている。あの建物はJF所有であるのでJFに直してもらうように努力をしてもらわないといけない。外来船誘致、来ていただく方にあそこを活用していただくようPRもしているので、JFに改修努力を働きかける必要がある。市で直すのは難しい。

道下委員

そもそもJFにはそういう力が落ち込んでいる。どうにか市でやってあげられないかと言われたのである。

また、沖底や巻き網の船員として関わる外国人への、新型コロナウイルスの影響について心配しておられた。その辺は把握しているか。

水産振興課長

何名か欠員状態で操業されているとは、ある会社から聞いている。

道下委員

もし、感染者が出たら荷揚げできなくなるのか、何か考えているか。

水産振興課長

JFがどう対応するかはまったく聞いていない。

道下委員

JFではなく浜田市はどう対応するのか。

産業経済部長

新型コロナウイルスの対応については、基本的には感染防止については保健所が中心になって行っている。各施設で発生したらどうするかとなると、浜田市が命令するのではなく保健所の指導のもと各施設で考え

ていただくことになると思う。J F職員に感染者が発生したら、濃厚接触者は当然出勤停止、施設もある期間閉鎖されると考えられる。例えば市職員が感染したら、市全体を止めるのか、そのフロアだけ止めるのか、課だけ止めるのかについては、状況に応じて対応することになる。出たらすぐ漁港が閉まるのかどうかは、市が結論付けて言うことはできない。

道下委員

部長クラスになればその辺の情報は捉えていて、口頭では言えないが、ある程度の腹入れはできているのだろうと思ったのだが。

産業経済部長

私は浜田市役所の産業経済部の部長であってJ Fの権限は持っていない。対策はJ Fでしっかり考えられると思う。

道下委員

仲買人、あるいはそれにまつわる商売人も、皆凹んでいる状況であり、お魚センターリニューアルオープンまでもたないかもしれない。お魚センターを核としてやるなら、その辺を腹入れしてもっとやらないともたないという声を聞く。

産業経済部長

何がもたないのか具体的に言ってもらいたい。

道下委員

経営者が。

産業経済部長

何の経営者か。

道下委員

仲買人と、仲買人と商売をしている相手である経営者の方。

水産振興課副参事

仲買売場1階の売り場の、マーケット組合の仲買のことか。

道下委員

そうだ。

産業経済部長

新型コロナウイルスに関連しての話か。

道下委員

そういうことを言われているので承知しておいてもらいたい。

串崎委員長

では、その他執行部から何かあるか。

産業経済部長

本日は貴重な場を設けていただいた。この活性化計画はかなり広範囲にわたってご意見をいただいた。

川上委員からは拠点化形成研究会も含めた関係人口との関わりについて、道下委員からは新型コロナウイルスに絡めて関係者の意見聴取について、野藤委員からは沿岸漁業やJ Fの管理について、笹田委員からは全般的にご意見をいただいた。まさに今年度が鍵である。飛野委員からは農林の関わりと担い手、野藤委員からはマンパワーはどうなっているのかということ、串崎委員長からも農業の関わりやイベントについて力を入れてほしいということ。

笹田委員が言われたように、まさに今年が鍵だと思って推進してきた。ただ、何とんでも新型コロナウイルス感染の問題が、水産関係だけでなく産業経済部にとって非常に大打撃と感じている。まずは新型コロナウイルス対策。仲買が打撃を受けているという話はおそらく、都会地に出していく仲買が一番、まず打撃を受けているという話だろう。これにも増して、浜田市内で一番打撃を受けているのは温泉旅館、観光業、イベント業、運輸業、宿泊業である。次が飲食業。まさに今松江で発生し、接待を伴う深夜の業務を自粛するようにと知事が宣言したことに伴って、市内のスナックやバー等、夜の飲食業が疲弊し始めている。当然小売り等にはまだ影響は少ないが、製造業や仲買業にも今後徐々に影響が出てくるのが想定される。これをいかに食い止めるかを、まずはやっぴかなければならないと考えている。この辺のことはあまり詳しくは申さないが、国もこれまでにないような施策を打ち出してきている。

まず国県の施策をいかに浜田市が、市民の皆さんにPRして、しっかり活用してもらえるかが、連休前後のポイントだと考えている。国県でできないところを浜田市が補てんできるかどうかを検討してまいりたい。

新型コロナウイルスの対策については議員の皆さんもどうかご承知いただきたい。産業経済部としては一番情報収集しやすいのは経済産業省のホームページである。これは毎日変わっている。日々国の動向が変わり、支援策が充実してきている。我々も毎朝ホームページや新聞を見ているが、日々ずっと変わってきている。それに遅れないよう情報収集しながら、市内事業者に情報提供していきたいと考えている。議員にも是非ご協力をお願いする。

元に戻り、せっかく7号荷捌所が出来たので、私としては産業建設委員の皆さんにまずは見ていただきたいと考えているが、これについても新型コロナウイルスの状況を見ながら担当課で計画して、実際に見て、実情を知っていただきたいと思っている。よろしく願います。

笹田委員

今回、全員協議会の後に浜田市議会災害対策支援本部を立ち上げる方向で進んでいる。先ほど新型コロナウイルスの話が出たが、例えば7号市場の使用が遅れたとか、11月のオープンが遅れるとか、そういった浜田市の計画が流れる場合、延期になる場合は、逐一連絡を入れていただいて、一緒になって情報共有に努めたい。ぜひ連携を取ってやっていけたらと思う。情報提供をよろしく願います。

串崎委員長

それでは、議題1を終了する。執行部の皆は退席されて構わない。

## 《 執行部退席 》

## 2. その他

串崎委員長

委員から何かあるか。

笹田委員

今後の会議については、どのように進めていくのか。

串崎委員長

今度の産業建設委員会は5月25日に決まっていると聞いている。以前で言う調査会のような形である。その際、政策討論のテーマ的な、頭になるような形のものを、そろそろ持って来なければいけないのではないかと思うのだが、どうだろうか。

笹田委員

やらなければいけないものなのか。そこをはっきりしてから進めないと。

川上委員

テーマとして討論しなければならない、するべきだろうというものがあるのであれば持っていかないといけないが、そうでなければ別に、必須ではないと思う。強引に進めても何も効果がないし、成果も出ない。

串崎委員長

皆の総意ならそれはそれとして、私から何も言うことはないが、先般の全員協議会の時に、議長から、そういう形になっているのでお願いしたいということ言われているので、できる限り議長の声を遵守すべきだと、委員長としては思っている。

飛野副委員長

5月25日の日付は一応決まっている。これに向けて、それまでにもし皆からテーマ等があるのであれば、それまでに考えていただいて、それから最終的な結論を出していただけたらと思う。

串崎委員長

ずっと勉強会という形でも、そういう気持ちであればそれはそれでも

笹田委員  
飛野副委員長

結構だろうし。では、その時にまた皆のご意見を聞くということで。  
しかし一度資料を皆に提供する。  
もし、特にある人がいれば25日にその辺のけりをつけて進めたらどうかと思う。

道下委員  
串崎委員長  
笹田委員  
野藤委員

違った大きな動きがあれば委員長に言う。  
他委員会と足並みをそろえる意味ではないが、少しは気になるので。  
堂々としていれば良い。  
新型コロナウイルスの影響もあるので、5月10日くらいまで自粛延長になっている。連休明けくらいに情報収集も含めて開催したらどうか。  
集まったほうが良いだろうか。

串崎委員長  
野藤委員  
串崎委員長

ワシントンも10日まで多分休業だった。  
25日までにもう1回会議を持ってということであれば開催するが、一応、5月25日は決まっているので、その時でも良いのではと思うが。

野藤委員  
飛野副委員長  
川上委員  
串崎委員長

何かあれば。  
特に何か起こったら別として。25日を目途として。  
それは正副委員長で判断してもらいたい。  
では、他になければ今日の産業建設委員会を終了する。

[ 11 時 41 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員長 串崎 利行 ㊟